

指定管理施設（ 総合福祉センター ）事業評価表
障害者福祉センター事業分

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい		年度評価		令和1年度の実施状況		令和2年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価	
					R1年度	R2年度								
社会生活適応訓練								実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	実施回数 (回)	参加延べ人数 (人)	
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	48	毎週月曜 (第4月曜 午後を除く)	・自立して生活ができるよう、自主性を尊重。 ・利用者同士の話し合いにより活動内容を決めて実施。 ・レクリエーションを交えながら活動することで、仲間づくりや 社会ルールを身に付ける。 ・買物に出掛けたり、簡単に出来るおやつや昼食作りをする事で、生活する力を身につける。 ・屋外活動を体験をする事で、社会ルールを学ぶ。	4	4	38	491	41	382	3	△ 109	・4・5月の閉鎖期間により、参加延べ人数が減少した。 ・閉鎖期間中は、参加者へ電話連絡を実施し、相談等の支援をした。 ・作品作りにおいて、それぞれができることを自主的に決め、活動ができるように支援した。コロナ禍によりできる事が限られていたが、作品作りを主に取り組む事で、今まで以上の達成感を得る事ができた。 ・外出では、市内の永保寺への社会見学や、社会生活適応に繋げた遠足を年1回ずつ実施できた。 ・登録利用者は、1人利用終了となったが、8月に再登録者が1名あり、実人数の変化はなかった。
	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練	24	第2・4水曜	・仲間と一緒に出来る事の楽しさを知る。	4	4	24	330	23	188	△ 1	△ 142	・閉鎖期間中は、参加者へ電話連絡を実施し、相談等の支援をした。 ・登録者2～3名の方がコロナ等の影響により休止になり、延べ人数が減少した。 ・歩行訓練を兼ねた公園散歩を多く取り入れ、利用者のニーズに沿った活動ができた。 ・職員による朗読会や、ガイド音声付きのDVD鑑賞は人気があった。
	1	ふれあい ◇主に重度心身障害者対象 ・日常生活訓練 ・家事訓練 ・外出訓練 ・音楽療法	48	毎週木曜	・意欲と能力に応じて生活を送れるよう支援する。 ・自立支援や仲間作りをする。	4	4	46	641	41	518	△ 5	△ 123	・閉鎖期間中は、参加者へ電話連絡を実施し、相談等の支援をした。また、音楽療法のCDを作成し、自宅へ郵送し在宅支援に繋げた。 ・コロナ禍の中でもできる活動を参加者で話し合い、作品作りやゲームの活動を実施した。また、活動を通し、四肢の機能維持と日常生活訓練に繋げた。 ・外出が出来ない状況の中、バーチャルで旅行や初詣を実施した。
		小計	120	—	—			108	1462	105	1088	△ 3	△ 374	
創作活動	1	俳句教室 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午前	・自分の気持ちを俳句で 表現することにより自分を見つめ直す事を目的とする。	4	4	22	180	18	70	△ 4	△ 110	・登録者が10人以上の教室の為、2グループに分けて開催した。その影響により、参加延べ人数が減少した。 ・閉鎖期間中は、自宅で俳句を作成していただき、講師が添削・推敲した内容を電話で伝え、在宅支援に繋げた。 ・多治見と可児の文芸祭で各1名の方が賞を受賞された。
	1	絵手紙 ・講師の指導により実施	12	第4火曜 午後	・自分の作品を作るとともに、他の参加者の作品と比較し交流を深める。	4	4	10	105	9	38	△ 1	△ 67	・登録者が10人以上の為、2グループに分けて開催した。その影響により、参加延べ人数が減少した。 ・閉鎖期間中は、講師が書いた見本を自宅へ郵送し、個人で画材がある方は自宅で絵手紙を実施した。 ・年度内に作品を出展している場所が、施設内を除き1箇所しかない為、今後展示箇所等を増やしPRする。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和1年度の実施状況		令和2年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R1年度	R2年度							
創作活動	1	切り絵	24	第1・3水曜午前	・細かい作業をする事で指先のリハビリにつなげる。 ・完成した時の喜びを期待する。	4	4	22	155	20	139	△ 2	△ 16	・閉鎖期間中は、電話連絡等を実施し、相談等の支援をした。 ・個人の制作活動として、継続して活動を続けている。 ・講師がいない為、参加者同士で切り方や色の配色等を相談して活動され、交流の場にもなっている。 ・1名の方が、岐阜市で開催された作品展で、知事賞を受賞された。
	1	ちぎり絵	12	第4月曜午後	・誰でも参加でき 簡単な 画材から始め 表現力・集中力・根気さと指先のリハビリに繋げる。	4	4	9	46	4	19	△ 5	△ 27	・ボランティア講師の指導のもと、季節の花や干支の飾りなどを新聞紙の広告部分を用いて制作した。 ・4、5月の閉鎖期間や1月以降のボランティアの受け入れを一時中止した影響により、参加人数が減少した。
	1	サロン	12	第2火曜午後	・簡単な おやつ作りや、軽スポーツ・買物等 誰でも参加でき、仲間と一緒に楽しむ。	4	4	10	87	10	74	0	△ 13	・コロナ禍で出来る活動を参加者と話し合い、今年度は個人作品を中心に実施した。 ・缶バッチ作りが参加者から好評で、来年度も実施を希望する声が多くあった。 ・買い物事業については、感染対策の為にしばらく中止とした。
	1	自主活動日	12	第1金曜午後	・誰でも自由に来館し、他の利用者と交流をはかりながら、各自の活動に取り組む。	5	5	10	54	11	50	1	△ 4	・緊急事態宣言中、講師の方が教室を自粛された場合に自主活動日に代替した為、回数の減少はなかった。 ・個人で制作テーマを決め、自主的に取り組まれていた。 ・自宅では集中できないが、センターでは集中して作品作りに取り組める、と参加者から好評であった。
		小計	96					83	627	72	390	△ 11	△ 237	
スポーツ・レクリエーション	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・スポーツ活動	12	毎週月曜日 (第4月曜午後を除く)	・健康の維持増進と身体機能の向上、社会性や協調性を養う。	4	4	7	56	5	27	△ 2	△ 29	・風船バレーやポッチャなど楽しみながら仲間との交流を実施した。 ・公園の散歩では、地域の方と交流しながら参加することができた。 ・マスク着用の為、時間を短縮して活動を実施した。
	1	がんばろう会 ◇主に知的障害者対象 ・リズム体操 ・講師の指導により実施	12	第2月曜午後	・身体を使って エネルギーを発散する。 ・仲間と同じ目的に向かって行動する。 ・発表の機会を設けて、達成感を味わう。	4	4	11	80	8	46	△ 3	△ 34	・講師の指導のもと、音楽に合わせて体を動かした。 ・マスク着用の為、時間短縮及び呼吸が激しくならないように2～3回休憩を入れ実施した。 ・講師の所属する協会の都合により、活動を中止する期間があり、回数と参加人数が減少した。
	1	サウンドテーブルテニス ◇主に視覚障害者対象	12	第4水曜午前	・視覚障害者の方にとって 楽しみにしているスポーツであり、仲間と楽しむ。	4	4	11	77	7	36	△ 4	△ 41	・毎月1回の実施予定でしたが、閉鎖期間や参加者の少ない日を中止とした為、実施回数と延べ人数が減少した。 ・参加者から、少ない人数でも中止せず体を動かしたい、と意見があったので12月より実施した。

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和1年度の実施状況		令和2年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R1年度	R2年度							
スポーツ・レクリエーション	1	かがやき ◇主に視覚障害者対象 ・音楽療法 ・講師の指導により実施	12	第4水曜 午後	・音楽を楽しみながら、嚙下や 身体機能向上を図る。	4	4	11	83	10	49	△ 1	△ 34	・閉鎖期間中は、講師が作成したCDを自宅へ郵送し、在宅支援に繋げた。 ・大きな声で歌う事を制限し、楽器演奏と音楽鑑賞を主として実施した。 ・参加者のリクエスト曲を活動に取り入れ交流し楽しむ事ができた。。
	1	3B体操 ・講師の指導により実施	24	第2・4火曜 午前	・楽しく運動機能の 維持を図る。	4	4	20	126	16	63	△ 4	△ 63	・3B体操協会の都合により、緊急事態宣言中は活動を自粛されていた為、回数と延べ人数が減少した。 ・開催時には、講師の指導のもと、マスク着用でも運動ができるように時間を短縮して実施した。
	1	ボッチャ	12	第1金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし 運動不足解消と身体機能 維持を図る。また、パラリンピックの種目の普及・促進を図る。		5			12	41	12	41	・時代に沿ったスポーツを取り入れ、障がいの種別関係なく参加ができ、参加者から好評だった。 ・ボールを投げる強弱や向きを頭の中で考えて行う為、体を動かしながら頭の体操にも繋がった。 ・教室の周知度が低いので、今後、活動をPRして登録者を増やす。
	1	風船バレー	12	第3金曜 午前	・楽しみながら身体を動かし 運動不足の解消と身体機能の 維持を図る。	4	4	21	81	7	28	△ 14	△ 53	・2チームに分かれ、風船バレーで対決をしながら、身体機能維持、向上につながる運動を行った。 ・マスクを着用して行う運動は、時間短縮で実施した。 ・登録者が年々減ってきているので、次年度はPR活動を行うが、参加者が減少する場合は、方向性を検討する。
	1	軽スポーツ ・機能訓練 ・理学療法士の指導により実施	24	第1・3水曜 午後	・理学療法士の指導のもと 専門的に身体機能の維持を図る。	4	4	22	173	20	76	△ 2	△ 97	・閉鎖期間中は、講師が自宅で出来る簡単な体操の資料を作成し、その資料を参加者へ郵送し、在宅支援に繋げた。 ・理学療法士の指導のもと、身体機能維持、向上を目的に教室を実施している。 ・体調不良により参加者が1～3名程度となり、夏以降から大幅に減少した。事業を検討した結果、次年度より軽スポーツは終了し、新たに軽体操を実施する。
	1	音楽療法 ・講師の指導により実施	24	第1・3火曜 午後	・精神的安定と嚙下 機能の向上を図る。	4	4	22	158	16	84	△ 6	△ 74	・閉鎖期間中は、講師が作成したCDを参加者の自宅へ郵送し、在宅支援に繋げた。 ・大きな声で歌う事を制限し、楽器演奏と音楽鑑賞を主として実施した。 ・参加者のリクエスト曲を活動に取り入れ実施している。 ・今後、コロナ禍の中でも出来る活動内容を講師と相談する。
	1	ヨガ教室(イス) ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午前	・車椅子の方やマットに横になれない方を対象とする。	4	4	21	160	19	191	△ 2	31	・閉鎖期間中は、講師が作成したヨガ体操資料を参加者の自宅へ郵送し、在宅支援に繋げた。 ・呼吸を整えて行う体操の為、体がスッキリして良い、と好評だった。
	1	ヨガ教室(マット) ・講師の指導により実施	24	第2・4金曜 午後	・自分に合った動きと呼吸により、 身体機能の維持と精神の安定を図る。			21	116	0	0	△ 21	△ 116	・感染予防策として、道具を共有するマットヨガを中止し、代替してイスヨガ教室を開催した。 ・次年度は、呼吸を中心としたヨガと筋力アップに向けたヨガを開催する。
		小計	192					167	1,110	120	641	△ 47	△ 469	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和1年度の実施状況	令和2年度の実施状況	前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価		
						R1年度	R2年度							
更生相談	1	障がい者にかかる相談全般	12	随時	・身体状況、生活状況、福祉制度等の相談や介護方法の助言を行う。	5	5	随時	38	随時	43	随時	5	・コロナ禍の中で、精神的に不調になってしまった方に対し、定期的に電話連絡をした。 ・生活において困っている事の相談が半数あり、その利用者の生活に寄り添った助言をし、支援に繋げた。
		小計	12					0	38	0	43		5	
リハビリ指導	1	リハビリ指導	96	毎週水・金曜午前	・身体機能の保持、機能回復を支援する。	4	4	82	310	78	246	△ 4	△ 64	・鍼灸マッサージ士による機能回復及び維持を目的とした身体リハビリを毎週水曜日と金曜日に実施した。 ・専門的なアドバイスもあり、利用者に非常に好評であった。
		小計	96					82	310	78	246	△ 4	△ 64	
送迎サービス	1	送迎サービス		随時	・通所が困難な方を対象とし、自宅までの送迎を行う。	4	4	随時	2,496	随時	2,048	随時	△ 448	・教室の参加者で自力または家族送迎が困難な方に送迎サービスを実施した。 ・閉鎖期間や参加延べ人数の減少により、送迎利用者も減少した。
		小計	0					0	2,496	0	2,048	0	△ 448	
その他	1	コロナ禍において、中止の事業 ①障害者レクリエーション交流会（7月、3月） ②障がい者福祉まつり ③障がい者バスツアー コロナ禍において、代替及び縮小して実施した事業 ④季節的行事 ⑤福祉体験			①障がい者レク交流会 ・誰でも参加できる軽スポーツ等で 障がい者、介護者、ボランティアの交流を図る。 ②障がい者福祉まつり ・障害者福祉センターの幅広い周知	4	27	1,072	11	443	△ 16	△ 629	①7月は、運動会を計画していたが、100人以上の参加者が想定される事業の為、今年度は中止とした。次年度も、コロナの影響により中止とする。令和4年度は、コロナの影響にもよるが、半日による時間短縮で開催できるように検討する。 ②今年度中止。次年度は、規模を縮小して、地域福祉課と児童センター合同の「ふくしの日」に地域交流事業を計画している。	
					③障がい者バスツアー ・日ごろ外出する機会の少ない障がい者の方へ外出する機会を提供し、家族、友人、ボランティアと一日楽しく過ごす。								④木曾三川公園のバスツアーを10月に計画していたが、コロナの影響により中止。今後のバスツアーについて検討した結果、バスを使ったツアーは中止とし、公共交通機関を使用したツアーに変更していく。次年度の実施は未定。令和4年を目標に実施する。	
					④季節的行事 ・伝統、文化の継承								④内部・外部とふれあう交流等は中止にした。代替として、教室内で季節的行事を取り入れ実施した。また、池田保育園との交流では、クリスマスリースを視覚障がい者の参加者が作成し、園児達にプレゼントしてプレゼント交換を実施した。	
					⑤福祉体験 ・福祉体験、福祉講座を行う事により、障がい者への理解を深めてもらう。 ・将来の福祉人材育成のきっかけ作り。								⑤緊急事態宣言があり中止となった出前講座もあったが、感染対策等を徹底し、11月～2月にかけて小学校を対象に車椅子体験等を4回実施した。次年度は、地域の児童を対象に、障害者スポーツ等の福祉に対する啓発活動を実施する。	

項目	区分	具体的内容	目標・ねらい			年度評価		令和1年度の実施状況		令和2年度の実施状況		前年比		取組み、成果、利用者の満足度・評価、課題分析、自己評価
						R1年度	R2年度							
その他	2	コロナ禍において、中止の事業 ①土曜教室（ふれんど） ②単発教室 コロナ禍において、代替及び縮小して実施した事業 ③障がい者団体意見交換会 ④交流事業			①土曜教室（ふれんど）・障害者の事業所を 利用している方などの余暇 活動と仲間作りの機会を提供する。 ②単発教室 ・通常のセンター利用者だけではなく、広く市内全体に公募し利用者拡大を図る。 ③障がい者団体意見交換会 ・各障がい者団体が一同に意見交流をし、事業の参考にする。 ④交流事業 ・複合施設の利点を活かすとともに、社協が運営する他施設との交流を図る。		4	24	207	3	78	△ 21	△ 129	①自主事業のふれんどについては、参加者が多い余暇活動の為、コロナが落ち着いてから再開する予定だったが、今年度はすべて中止となった。次年度以降も休止期間とするが、一度事業の見直しを含め検討する必要がある。 ②料理教室等を開催できるように計画していたが、感染対策の為中止にした。次年度は、新規教室に繋がられるような試験的教室を開催する。 ・例年開催していた5月の開催を延期とし、秋頃の開催を予定していたが、コロナの影響により今年度は中止とした。代替として、各団体の代表者に向けてアンケート調査と障害者福祉センターの事業報告を郵送等により実施した。各団体の活動も、コロナの影響により中止が多いとの事で、次年度の交換会も、郵送及び通信での連絡とする。 ・交流事業の計画を年間で予定していたが、対象者が基礎疾患及び高齢者という事もあり、今年度は、ふれあいの交流は中止とした。代替として、作品を通じての交流やプレゼント交換による間接的な交流を実施した。
		小計	0					51	1,279	14	521	△ 37	△ 758	

（留意事項） ※「区分欄」は、指定管理者の協定書・仕様書で定められた事業は「1」、協定書等がない自主事業は「2」を記入。

平均値比(注) 105%以上：5点、105%未満～95%：4点、95%未満～85%：3点、85%未満：2～0点